

市政を問う

一般質問

12月定例会における市政に関する一般質問は、12月5日、6日に行われ、5人の議員が質問に立ちました。各議員の質問と市長を始めとする当局の答弁要旨は次のとおりです。

(質問議員が執筆し、掲載順序は質問順です)

* 質問、答弁の詳しい内容は会議録でご覧いただけます。市議会ホームページか、半田図書館・亀崎図書館に設置してあります会議録をご利用ください。またYouTubeでもご覧いただけます。



志民ネット
小栗住仁 議員

骨髄移植のドナー支援充実について

問 在住者の白血病等の患者数とドナー登録者数について伺う。

答 愛知県の白血病の推計患者数から、人口比により算出した本市の白血病の推定患者数は16人です。ドナー推定登録者数は、316人で登録率は0.6%です。

問 ドナー募集の推進について伺う。

答 ドナー登録に関する普及啓発物の公共施設への設置や献血会場等におけるパンフレット等の配布に加え、献血時にドナー登録を受け付けるなど、ドナー登録推進を図っています。

また、市内の高校3年生・半田常滑看護専門学校を対象とする献血セミナーでは、「あいち骨髄バンクを支援する会」の方を講師とする講演会を開催し、移植を受けられた方の生の声により、ドナー登録の大切さを伝えていきます。
今後、事業所内において、献血と併せてドナー登録をご案内いただき、

登録をご案内いただき、献血とドナー登録を同時実施してまいります。働きかけてまいります。

問 妊婦検診時の臍帯血バンク登録を推進できないか伺う。

答 出産時に採取されるが、市内に臍帯血を採取できる病院はなく、県内においても限られていことから、臍帯血提供の推進は困難な状況です。

問 ドナーが安心して提供できる助成制度・休暇制度創設助成について伺う。

答 休暇取得や経済的理由により、骨髄等の提供に至らないケースは改善されなければならぬと考えます。国全体の統一された制度により、改善が図られるよう近隣自治体と連携し、市長会等を通じて要望していきます。

また、市ホームページで休暇制度を導入している企業・団体名を紹介するとともに、日本骨髄バンクホームページへのリンクを行うなど、ドナー登録及び提供が適切に推進されるよう普及啓発を図ってまいります。



創造みらい半田
中村宗雄 議員

半田市の将来に向けた責任ある市政運営について

問 現時点での新病院移転・建設のスケジュールはどうなっているのか。

答 平成33年から実施施設計を行い、平成36年に病院本体建設工事、開院は平成37年になる見通しです。

問 新病院建設候補地の検討会議とはどのような方をメンバーとした会議体なのか。

答 検討委員は医療関係者、学者、学識経験者、市内各種団体に所属する方10名以内で、4回程度の会議で検討いたします。

問 新病院が半田運動公園東附近に移転した場合、半田の都市計画マスタープランに示された「活力創造軸」から外れるが、将来に向けた半田市の都市像についてはどう考えているのか。

答 病院がこの軸から外れる事は、賑わいや活力に少なからず影響を及ぼすと考えますが、将来に向けた都市構造や都

市軸に変更はありません。

問 新病院を常滑市との市境に建設した場合に、常滑市民病院に経営問題が起ころうの可能性については如何お考えか。

答 両院の診療圏や医療機能等が重複、競合する事が予想され、常滑市民病院の経営面に与える影響を懸念しています。

問 経営問題を解決すべく、近い将来に常滑市民病院と半田病院との経営統合については如何お考えか。

答 将来にわたり良質な医療を安定的、継続的に提供するために、また、両院を連続させていくためにも、連携をより強化する事が重要であると考えております。

問 知多半田駅前前は空洞化が進み、中心市街地としてふさわしくない状態が続いています。一つのアイデアとして、知多半田駅前もしくは、これから始まるJR半田駅前の土地区画整理事業に新病院建設を組み込み、中心市街地活性化の起爆剤とする考えは無いのか。

答 区画整理事業区域と区域外をまたいで敷地を確保する事は理論上可能ですが、費用と時間の面から実現は困難だと考えております。

市政を問う 一般質問 (質問議員が執筆しています)